

次のステージに向けて

副校長 長沼 健一

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ平成28年がスタートしました。昨年、児童・生徒の皆さんは、日々の学習を通じて、力を積み重ねてきました。児童・生徒の成長は、ご家庭のご協力があったからこそと思います。本年も本校の教育活動に対して様々なお力添えをいただけますようお願いいたします。

3学期の授業日数は、52日間です。あっという間に過ぎていき、卒業や進級を迎えることとなります。1日、1日を大切にしてほしいです。始業式では、校長先生から次の話がありました。

- ・目標をたてましょう。

新年を迎え、児童・生徒の皆さんは、今年目標や抱負を考えたことでしょうか。その達成のためには、目標・抱負を、児童・生徒本人、ご家庭、教員が共有し、ともに取り組むことが大切です。学校とご家庭の連携をより深めていきたいです。よろしく願いいたします。

また、目標達成のために頑張っている児童・生徒の様子をぜひご覧ください。昨年の授業参観では、多くの保護者にご来校いただきました。その後のアンケートでも「とても楽しそうだった」という回答を多くいただくことができました。自由意見でも授業で工夫している点に気付いていただいております、とてもありがたく思います。改善に向けてのご意見もいただいております。これは、今後の授業参観に生かして参ります。今学期も授業参観日だけでなく、学校にお越しの際には、お気軽に授業をご覧ください。お待ちしております。

表彰されました！

毎年実施されている「はたらく消防の写生会」。今年度は、A部門、B部門合わせて7名の児童が「入選、優秀賞」を受賞しました。12月25日の終業式では秋川消防署の方3名に来校していただき、直接賞状を渡していただきました。

学校の様子から



精いっぱい走りました。

B 高等部マラソン大会

担当 B 高体育科

当日の天気は曇り時々晴れ、過ごしやすい気候の中、毎年恒例のB高等部マラソン大会が、12月21日(月)に行われました。保護者の方々の応援も多数ある中で、生徒は今まで練習して来た成果を、充分発揮しました。競技はあきる野学園グラウンドと亜細亜大学グラウンドの2か所に分かれて行われました。生徒同士の応援も元気で活気があり、とても良い雰囲気の中、マラソン大会が進められました。たくさんの方々の協力や支えがあり、今回のマラソン大会も、事故怪我なく無事終了することができました。本当にありがとうございました。



ICT機器の活用について

あきる野学園には今年度の12月より21台のiPadが配備されています。A部門5台、B部門14台、言語室2台と振り分けて使用しています。12月の使用状況をざっと計算してみると約80%でした。B部門では割り当ての14台では足りないようで、A部門割り当ての方も使用している日も多くあります。

さて、授業での利用方法ではアプリを使って学習内容の練習をすとか、カメラを使って植物の成長の記録に使うとか、行事の事前事後学習での写真などの提示、コミュニケーションツールなど、多岐にわたります。持ち運びやすく起動が速い、モニタにつなげやすいなどPCよりも使い勝手がいいことが利用率の高さの理由の一つでしょう。

ある先生は絵本の画像をカメラで撮り、アプリを使ってiPadで見ることでできる絵本を作ってモニタで大きく提示し、教室で読み聞かせをしています。まったくの初心者の方先生でもすぐに作ることができたそうです。



学校の様子から



学校教育支援員について

本校知的障害教育部門には平成 26 年度より外部専門家として、学校教育支援員が導入されました。職種はすべての学部で理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床発達心理士（ここまで西多摩療育支援センター）、歯科医師、さらに小学部には大学教授、体操インストラクター、中学部には大学教授、臨床発達心理士、高等部には農園芸指導の先生が不定期で教員の指導力向上のために来校されています。

支援の方法の主なもの、教員からの相談内容を整理し、授業見学で児童・生徒の様子を観察し教員の抱える課題に対して、具体的な助言をしていただいています。

以下の写真は理学療法士、作業療法士と共同で学習机と椅子を改良し、児童・生徒が安定した姿勢で学習できるように工夫したものです。



自立活動指導員について

本校肢体不自由教育部門には平成 16 年度より、外部専門家として自立活動指導員が導入されました。これは都内の特別支援学校では最も早い導入で、西多摩療育支援センターより、理学療法士、作業療法士をむかえ特設自立活動の指導の充実を図ってきました。

さらに、平成 26 年度からは教科指導に大学教授、摂食指導に歯科医師、プール指導に理学療法士、体育指導に大学教授を招へいし、各教科の授業に入らせていただくことになりました。特設自立活動以外の授業においても、自立活動をベースにした指導の充実を図っています。

自立活動指導員のコーディネーターは自立活動室が行います。このため、特設自立活動の授業に専任教員が入れないこともありますが、西多摩療育支援センターの理学療法士、作業療法士の協力のもと、各学部との連携を密にし、指導内容を維持するように努めています。



学校介護職員について

本校の A 部門に学校介護職員が導入され、2 年目を迎えました。今年度は A 小学部に 7 名、A 中学部に 4 名、A 高等部に 4 名が配属されています。着替え、トイレ、水分補給、食事など日常生活面での支援の他、授業では、学習での動作（スイッチを押す、物をつかむなど）の介助など、さまざまな場面で児童・生徒の支援を行っています。支援する内容については、個々の児童・生徒の課題や授業の内容に応じて、教員からの指示に基づいて行われています。2 年目ということもあり、学校介護職員と教員との連携も深まってきました。また、学校介護職員も児童・生徒への指導が充実してほしいという思いを昨年以上に感じています。

今年度から、本校では医療的ケアも学校介護職員が行えることになりました。教員同様に研修を受けた学校介護職員が、実施者となっています（12 月現在 3 名）。また、宿泊行事でも臨時教員補助員として引率に同行してもらったことも増えました。指導において学校介護職員が欠かせない存在となっています。

清掃親子教室（B 小学部）

～掃除のプロから学ぼう～

B 小学部では、「キャリア教育の一環」として、親子でプロから掃除の仕方を学ぶ機会を設けています。最初から正しい方法を身につけ家庭での指導にもつなげていく中で、働く力を育てる第一歩になればと考えています。今年も、東京ビルメンテナンス協会から 3 名の先生に来ていただき 4 年は「テーブル拭き」5 年は「自在ほうきの使い方」を教わりました。ビルメンテナンスの先生方が褒め上手で、いつもより張り切って取り組む姿も見られました。早速、ほうきを買って家でも取り組もうというご家庭もありました。

